

実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和6年度
助成団体	公益社団法人日本ウエイトリフティング協会
事業細目名	ドーピング防止啓発活動推進
事業名	アンチ・ドーピング研修会・講習会およびアウトリーチ
助成金額	733,000円

令和6年度スポーツ団体スポーツ活動助成（ドーピング防止啓発活動推進）を受け、公益社団法人日本ウエイトリフティング協会が実施した「アンチ・ドーピング研修会・講習会およびアウトリーチ」の実施状況について調査を行いました。

本事業は、アスリートおよびサポートスタッフ（監督・コーチ・ドクター・保護者等）へアンチ・ドーピングに関する知識を提供し、ドーピング規則違反を防止することを目的に実施されています。

■助成の意義

助成を受けたことにより、パリオリンピック代表選手を含むトップレベルのアスリートから年代別の選手まで、幅広い選手を対象に講習会を実施することができたとのことです。これらの講習会は、アンチ・ドーピングへの理解を深める機会となり、アウトリーチ活動では、大会に参加する高校生がアンチ・ドーピングを前向きに捉えるきっかけとなり、高い啓発効果が得られたとのことです。

さらに、大学生対象の研修会やジュニアエリート合宿ではグループワーク後に発表を行い、活発なディスカッションを通じて理解がより深まった様子が見受けられたそうです。

実施後の満足度調査では「禁止薬物について理解できた」といった声が寄せられ、参加選手たちの知識向上につながったと団体として評価されています。

■事業効果を高めるための取り組み

アウトリーチ活動は、多くのジュニア・ユース選手が参加する大会を選んで実施したことにより、効率的な啓発を行うことができたそうです。

研修会については、年代や競技レベルに応じて内容を段階的に設定し、ジュニア層には基礎的な内容を、トップレベル選手には海外の最新情報を取り入れるなど、段階を踏んだ効果的な学習機会が提供されていました。

また、講習会の参加者が令和5年度に比べデータ上では増加していましたが、その背景には、大会時の監督会議やコーチ会議などでの周知が浸透してきたことも一因と考えられるようです。

■その他

国際検査機関（ITA）や日本アンチ・ドーピング機構（JADA）などの関連団体とは、日頃から

選手登録・情報共有等の面で連携しているとのことでした。

また、アンチ・ドーピングに対する理解度向上だけでなく規則違反を未然に防ぐための取り組みとして、選手が服用する薬や摂取するサプリにおいて禁止薬物が含まれているか確認するための機関について、選手への情報提供なども行われているそうです。なお、国民スポーツ大会前には、各都道府県競技団体もアンチ・ドーピングの取り組みを強化しているとのことでした。

■所感

アンチ・ドーピングに対する意識が不十分なまま、意図せず規則違反につながってしまうケースもあり得るため、本事業のような研修会やアウトリーチ活動を継続的に実施していることは大変意義深いと感じました。それと同時に、ウエイトリフティング競技において、こうしたドーピング防止啓発の取り組みが重要な役割を果たしていることを改めて実感しました。

本事業を通じて、選手一人ひとりのアンチ・ドーピングに対する理解促進と意識向上により良い影響を及ぼし、将来的な規則違反の防止につながっていくことを期待します。

(令和7年11月5日往査)

(写真) アンチ・ドーピング研修会・講習会およびアウトリーチの様子

